なごや認知症NEWS

なごやの認知症の今が分かる

● 発 行 ●
名古屋市認知症相談支援センター
✉ n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp
☎ 052-734-7079　📠 052-734-7199
※ 本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて運営しています。

認知症当事者ネットワークなごや『トイプードルの会』

認知症と診断された人が、仲間と出会い、語り合い、支え合うことを通し、自信を取り戻し、自らの人生を希望を持って生きるための拠点から、その経験を活かしながら社会に参加・貢献する活動が展開されています。

今、本人が望む暮らしが実現できるまちづくりが拡がっています。

仲間と出会い、自分だけじゃないと思った。認知症になった自分だからこそ、できることをしたい。社会の役に立ちたいんだ。

名古屋市では、令和４年４月から毎月「認知症当事者ネットワークなごやトイプードルの会」を開催しています。対象は、名古屋市内在住の認知症の人とその家族です。トイプードルの会の名前は、喫茶店「プードル」のマスターが、若年性認知症とともに第二の人生を過ごす中で、認知症カフェ”といぷーどる”のマスターとして認知症の人たちが元気に生きてほしいと願いながらコーヒーを淹れていた話を聞いた参加者が、その思いを引き継いでいきたいという声から決まりました。チラシはデザイン関係の仕事をしていた当事者のＡさんが作成しました。

会では、毎回、思い思いの語りを通して、これからやりたいことなどを話し合っています。その中で「コロナ禍で遠くには行けないけど、名古屋市内にもたくさんいいところがあるよね」「日泰寺って行ったことないな」という話になり、９月に“覚王山ツアー”に出かけました。企画は、地元に住む当事者のＢさんといきいき支援センター、当センターの三者で進めました。当日は、市内・外から50名ほどの方が参加しました。デイサービスや施設からの参加もあり、日ごろ交流できない人同士、日泰寺の参道を一緒に歩き、沿道の美味しいものやおしゃれな雑貨を目にしながら交流しました。文化財の揚輝荘にも足を運びました。観光案内の方に「認知症の人たちが観覧したい」とお伝えすると丁寧な説明とサポートをしていただきました。

また、10月には、ヘルプカード・希望を叶えるヘルプカードに地域の人にお願いしたいことを記載し、街歩きをしました。Ｃさんは、ドラッグストアに行き、会計の時に「認知症です。自分でお金を支払いたいです」と書いたカードを提示しました。店員の方は、ゆっくりと説明し、Ｃさんは自分で支払うことができました。Ｄさんは、地下鉄に乗る時に、カードを駅員の方に見せたことで乗りたい電車に乗ることができました。街歩きの後、参加者で自分たちが暮らしやすい街になるために社会に伝えていきたいことを話し合いました。

今、市内でも認知症の当事者が集まり、語り合う場が広がっています。それぞれがやりたいことを語り、実現し、暮らしやすい社会づくりへのステップとなることを目指しています。

認知症啓発イベント「中区RUN伴＋（ラントモ プラス）」・当事者作品展の開催

9月21日（水）「世界アルツハイマーデー」にあわせ、認知症とともに生きる人やその家族、医療福祉関係者と地域住民や商店街の人などが、認知症啓発カラーのオレンジ色の物を身に着け、一緒にウォーキングするまちづくりイベント「RUN伴＋（ラントモ プラス）」が中区で開催されました。「認知症にやさしいまち大須プロジェクト」の一環として、コロナ禍の中止を経て３年ぶりの実施です。認知症の人やその家族、支援者、キャラバン・メイト、中区広報大使OS☆U等、総勢60名で、大須観音をスタートし、まちの人々と言葉を交わしながら、オレンジ色にライトアップされたゴールの中部電力ミライタワーへ向かいました。

「認知症でも沢山のことができることを知ってほしい」という声から、認知症の人の作品が中部電力ミライタワー内に展示され、大須商店街には当事者の方がデザイン協力した大きな垂れ幕が掲げられました。作品を見た人からは、「何もできなくなるわけじゃないんだ」「作品を購入したい！」等の声が聞かれ、それを聞いた認知症の人はとても喜ばれたそうです。いきいき支援センターの担当者は「商店街の方々が手を振ってくださり、好意的な反応が多かった。今後も地域の協力を得ながら活動を継続し、理解・関心を高めていきたい」と語りました。

展示作品

ジェントルマンの会」（名古屋会場）が始動！
男性介護者の課題と支えとは？

令和４年６月より毎月１回、第２または第３木曜日の午後に認知症の人と家族の会愛知県支部と当センターが共催する形で男性介護者交流会「ジェントルマンの会」が開催されています。新たな参加者を加えながら毎回10名程度の方が参加されています。

２０１９年度の国民生活基礎調査によれば、同居の主な介護者の35％が男性です。男性介護者にはどのような特徴や課題があるのでしょうか？また、男性が介護とともに生活していくには、何が支えになり、どんなことが必要になっていくのでしょうか？

自らも介護経験者で会の司会をされている認知症の人と家族の会愛知県支部の世話人の方にお話をお伺いしました。

「（姿勢としては）すべてを自分ひとりで背負い込もうとし、他者への相談が苦手で、データや記録、本、インターネット等に頼りがちです。また（家事の面では）、料理や食事のことでお困りになっていることは多い」と。そして「（他の）ご家族や周囲の方々も含めた“あたたかい声かけや見守り”が心の支えになり、同じ介護仲間同士で話し合うことや家族の理解が必要」とのことでした。従って「どうしたら（他の）家族の支援が得られるかを話し合うことが必要」になってきます。

この会はまだ始まったばかりですが、名古屋市やその近辺の男性介護者の方々の拠りどころのひとつにしていただければと思います。

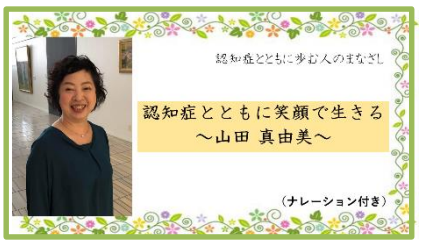
『認知症とともに歩む人のまなざし』認知症とともに笑顔で生きる～山田　真由美～」の配信

名古屋市認知症相談支援センターでは、“認知症”に向き合う本人や家族の語りを「認知症とともに歩む人のまなざし」として動画にまとめています。

今年度、新たな動画を公開しました。

山田真由美さんは、認知症と診断後、不安な日々を過ごしていました。しかし、当事者や様々な人との出会いを通して元気になっていきました。「認知症と診断されて不安いっぱいの人、閉じこもりがちになってしまっている人、そんな人たちに元気になってもらいたい」という思いで講演活動を続けています。山田さんの言葉を中心に認知症が進行していく中でも伝え続けたい思いを写真とともに発信しています。

YouTube チャンネル QRコード



認知症コールセンターです 市民からの相談に応じています

●相談例①●母のもの盗られ妄想に困っている。
【応対】「物がない」と言われたら、「そうなんだね。一緒に探そう」と声掛けをして、お母さまに見つけてもらうようにすることが大切。また、いきいき支援センターにも相談できることをお伝えしました。

●相談例②●独居の父は介護サービスを嫌い、子どもたちの支援を求めてくる。サービスを使い自立してほしいと思うのは間違いですか？
【応対】もやもやした気持ちを共有しつつ、子どもさん同士で相談できることは有難いことに触れながらお話をお聞きしていると、相談者の考えがまとまってきたようでした。

認知症の人が事故を起こしたときに備える「賠償補償制度」

なごや認知症の人 おでかけあんしん保険事業

保険料 無料
※診断書（初回のみ）は自己負担です。
【保険事業受付事務局】
Tel 052-734-7099
令和4年度 12月末の加入件数 2,250件
名古屋市HP